

－「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」の取り組みを支援

阿蘇草原再生協議会に設置された草原環境学習小委員会が平成 21 年度～25 年度までの 5 箇年計画で取り組む「阿蘇草原キッズ・プロジェクト」では、地元小中学校における草原環境学習の導入を促進し、ひいては次世代の担い手育成にもつながっていくことを目指し、小委員会メンバーが連携しながら学習プログラムの実践や必要な体制づくりを進めている。本業務では、環境省が担う「モデル校」における学習プログラムの実践及び地元小中学校における草原環境学習の学校カリキュラム化に向けた検討を支援した。

モデル校における学習プログラムの実践支援

「モデル校」は阿蘇郡市内の小学校を対象として平成 25 年度まで毎年指定し、学習プログラムを実践・検証することにより、その成果を汎用的な学習プログラムの開発に活かしていく。平成 23 年度は前年度に引き続き阿蘇市の坂梨小学校及び碧水小学校が「モデル校」として年間通した学習プログラムを実践。業務ではプログラム実践・検証及びとりまとめを支援した。

平成 23 年度は、モデル校に加えショートスクールや各主体による個別プログラムなど、草原キッズ・プロジェクトとして実施された学習プログラムに阿蘇郡市内の小中学校 40 校のうち 14 校が参加、558 名の児童・生徒が何らかの形で阿蘇の草原について学んだ。

教育現場で取り入れやすい基本プログラムの検討

プロジェクト 3 年目の平成 23 年度は、これまでの成果を生かして、教育現場で取り入れやすい基本プログラムの作成に着手。ワーキンググループに参加しながら、プログラムの構成や具体的な内容について検討するとともに、教育関係機関へのヒアリングや意見交換会開催など関係者との連携強化に向けた取り組みを支援した。

【基本プログラムの構成とテーマ（案）】

- 基本プログラムは、各学校が取り入れやすいよう 5～6 時間（コマ）のできるパッケージとして 10 種（基本プログラム 8 種、応用編 2 種）を作成する。

〈学習の基本テーマ〉

- 阿蘇のカルデラと草原の成り立ち
- くらしと草原・草原維持のしくみ
- 草原がもたらす恵み
- 草原の現状と保全に向けた取り組み

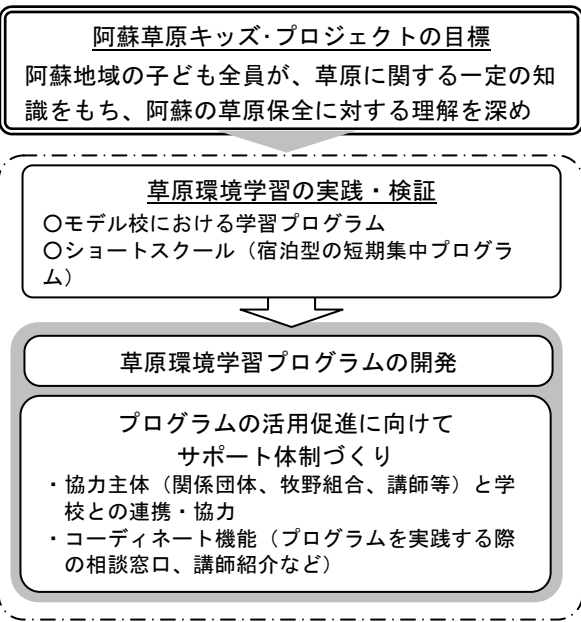
◆基本プログラム A

- (1) 阿蘇のカルデラと草原の成り立ちを学ぼう
- (2) 草の利用①～草原のススキで卒業証書を作ろう
- (3) 草の利用②～草原のススキで人形を作ろう
- (4) あか牛と草原について学ぼう
- (5) 野焼きについて学ぼう
- (6) 草原の生き物について学ぼう
- (7) 草原が育んだ文化について学ぼう
- (8) 「九州の水がめ、阿蘇」について学ぼう

◆基本プログラム B：応用編

- (1) 草原の危機について学ぼう
- (2) 草原を守るためにできることに取り組もう

- 各パッケージは、ステップ 1（導入学習）、ステップ 2（体験学習や調べ学習）、ステップ 3（まとめ、ふりかえり等）で構成。
- 平成 23 年度は、「基本プログラム A」のうち(2)と(8)について具体的に検討した。
- 草原学習に初めて取り組む場合は基本プログラム A から。
- まずは 8 種のうちできそうなプログラムを 1 つ選んで実施。
- さらに出来る場合は他のプログラム実施へ。
- 応用編は、草原の恵みについて理解した上で実践することを想定。



地元牧野組合の協力による草原体験学習
（卒業証書の紙の原料になる草を刈る）